

医学系研究科看護学専攻カリキュラムマップ

DP	1年次	2年次
専門知識・理解 A	理論看護学 看護教育学 看護管理学 臨床科学 看護教育特論 看護医科学特論 基礎看護学特論 急性期成人看護学特 慢性期成人看護学特 小児看護学特論 母性看護学特論 老年看護学特論 精神看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論	
	助産学特論 I 助産学特論 II 助産学特論 III 助産学特論 IV 助産学特論 V	助産学実習 I・II・III 地域母子保健学実習
研究能力・応用力 B	看護研究方法論 1 看護研究方法論 2	看護医科学演習 基礎看護学演習 急性期成人看護学演習 慢性期成人看護学演習 小児看護学演習 母性看護学演習 老年看護学演習 精神看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習
	特別研究	
社会的責任 C		修士論文
	助産診断学 I 助産診断学 II 助産診断学 III 周産期ハイリスクケア 助産診断学演習 I 助産診断学演習 II 助産診断学演習 III	助産学実習 I・II・III 地域母子保健学実習 I 助産学実習 III 助産業務管理学特論 医療福祉経営論
グローバルマインド D	看護倫理学	地域母子保健学実習
	国際看護学特論	I 助産学実習 III 地域母子保健学特論 地域看護学実習

入門科目
基礎科目
応用科目
統合科目

基礎科目
基礎科目
各専門領域別演習
研究科目

大学院教養科目

助産学コース

基礎助産学
地域母子保健
助産学実習

助産診断・技術学
助産管理

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

〈看護学コース〉

①専門知識・理解

1、2年次に配置された基盤科目により、看護の理論を学習し、またその教育方法及び管理に関する専門知識を理解・修得します。さらに、臨床科学に関する知見を深めます。引き続き開講する各看護学特論により、看護専門職者として活躍するために必要な幅広い専門の知識を身につけます。

②研究能力・応用力

1年次前期の基盤科目の「看護研究方法論1及び2」により専門的研究実施の基礎的能力を修得します。後期には、専攻領域単位で行われる各専門領域別演習により自己の研究課題及びその研究方法の明確化を行い、研究計画書を作成します。多角的な意見を踏まえた研究計画書が作成できるように中間発表会で公開指導を受けます。さらに複数の教員の指導による「特別研究」において、自らの専門に関わる課題に対する研究を実施し、一定の結論を導き、これらを修士論文としてまとめることを通じて研究能力・応用能力を培います。

③倫理観・社会的責任

1年次前期に開講される「看護倫理学」において、研究倫理、安全教育、情報リテラシー、知財など研究遂行にかかわる倫理だけでなく、看護専門職者として必要な看護倫理及び倫理的意思決定について系統的知識を身につけます。さらに「看護管理学」において、看護専門職者として法的責任を理解するとともに社会的責任について自覚し、看護実践の質向上に貢献できる能力を培います。

④グローバルマインド

1年次前期に開講される「国際看護学特論」では、文化の異なる諸外国の看護、その教育、実践、医療福祉政策における看護の役割について修得します。国際的視野に立って世界の看護・保健・医療・福祉の現状を理解し、柔軟に対応できる能力を培います。また、開設される全ての授業科目で適宜、英語文献を講読し、国際的視野を身につけます。

〈助産学コース〉

1) ハイリスク妊娠分娩産褥・新生児に対応できる、専門的知識に裏付けされた高度助産実践能力の修得

助産領域に関する基礎的専門知識と技術及びハイリスク妊産褥婦・新生児に関する知識と技術を修得し、その後の各臨地実習において、修得した知識・技術を活用して、周産期マタニティケア能力に加え高度助産実践能力の修得を目的とします。

そのために、専門的知識と技術を用いて対象を理解し、問題を捉え専門職として問題解決できるための講義・演習・実習科目を1年次前期から後期に設定します。

授業科目として、専門科目（助産学）の「助産学特論Ⅰ（助産学概論）」、「助産学特論Ⅱ（リプロダクティブヘルスと権利）」、「助産学特論Ⅲ（周産期学婦人科学）」、「助産学特論Ⅳ（胎児学・新生児乳幼児学）」、「助産学特論Ⅴ（薬理・臨床検査学）」、「助産診断学Ⅰ（妊娠期）」、「助産診断学Ⅱ（分娩期）」、「助産診断学Ⅲ（産褥期、新生児・乳幼児）」「周産期ハイリスクケア」、「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を開設します。

2) 周産期医療における高い倫理的感応力の修得

女性のライフサイクル各期における様々な課題とその解決を学ぶ中で、女性の生涯にわたる支援能力及び倫理的感応力の修得を目的とします。

そのために、基礎的な看護倫理についての知識を修得する「看護倫理学」を1年次前期に基盤科目として配置しました。その後、ハイリスク妊娠分娩産褥・新生児へのアセスメントケア能力や地域における母子支援を自律して行える能力を身につけるために、演習科目と実習を通して、助産師としての倫理的感応力と周産期における倫理的課題を解決できる能力を修得する科目を設定します。

授業科目として、基盤科目の「看護倫理学」と、専門科目（助産学）の「助産診断学演習Ⅰ（妊娠期）」、「助産診断学演習Ⅱ（分娩期・産褥期）」、「助産診断学演習Ⅲ（新生児・乳幼児）」、「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を開設します。

3) 自律して地域社会に貢献するための専門的能力とマネジメント能力の修得

専門的知識に裏付けされた高度助産実践能力および助産管理能力を含めたマネジメント能力をもち、地域社会における医療・保健・福祉関係者等との多職種と協働連携して、地域における母子を包括的に支援し自律して地域社会に貢献できる能力の修得を目的とします。

そのために、マネジメントに関する基本的知識を修得する「看護管理学」を設定し、その後、助産師に求められるマネジメント能力を修得する「助産業務管理学特論」、「医療福祉経営論」、「地域母子保健学特論」を設定しました。

加えて、2年次前期に設定した地域の保健センターにおける「地域母子保健学実習」をとおして、地域の多様なニーズに対応した母子保健サービスについて理解し、専門職としての社会的責任と自律して社会に貢献できる能力を培います。

授業科目として、基盤科目の「看護管理学」と、専門科目（助産学）の「助産業務管理学特論」、「医療福祉経営論」、「助産学実習Ⅲ（助産管理）」を開設します。さらに、応用力を高めるために、「地域母子保健学特論」、「地域母子保健学実習」を開設します。

4) 女性の生涯を通じたリプロダクティブヘルスの視点から、生理的、心理・社会的課題を探究し、女性のライフサイクルにおける健康問題や臨床場面の問題について分析できる能力の修得

助産学コースで修得した基本的知識と高度助産実践能力を基盤に、助産師として生涯を通じた女性のリプロダクティブヘルスの視点から、対象者の生理的、心理・社会的健康課題を探究し、科学的根拠に基づき分析できる能力の修得を目的とします。

そのために、現代社会において女性と家族が抱える様々な問題と課題をリプロダクティブヘルスの視点から明確にし、包括的・継続的な支援ができる能力を修得する講義・演習・実習科目を設定します。

授業科目として、専門科目（助産学）の「助産学特論Ⅱ（リプロダクティブヘルスと権利）」、「助産学実習Ⅱ・Ⅲ」を開設します。

5) 助産ケアの研究・教育者、および指導者としての能力を修得する

将来にわたり助産ケアに関する新しい知見を活用するだけでなく、自ら研究を継続し、助産学の発展に寄与する研究者、および教育者や指導者としての基礎的能力の修得を目的とします。

そのために、1年次前期に開設される科目により、関連する学問分野の論文を読む能力と研究を遂行するために必要な基本的知識について学びます。その後、自己の研究課題と研究方法について探究し、臨床や地域の問題を解決するための方法を科学的根拠に基づいて導き出せる能力を修得します。2年次からは「特別研究」として、指導教員および副指導教員の支援を受けながら「助産学」に関する研究を実施し、その成果を修士論文としてまとめます。

授業科目として、基盤科目の「理論看護学」、「看護研究方法論Ⅰ・Ⅱ」、「看護倫理学」、「看護教育学」、「看護管理学」と「特別研究」を開設します。